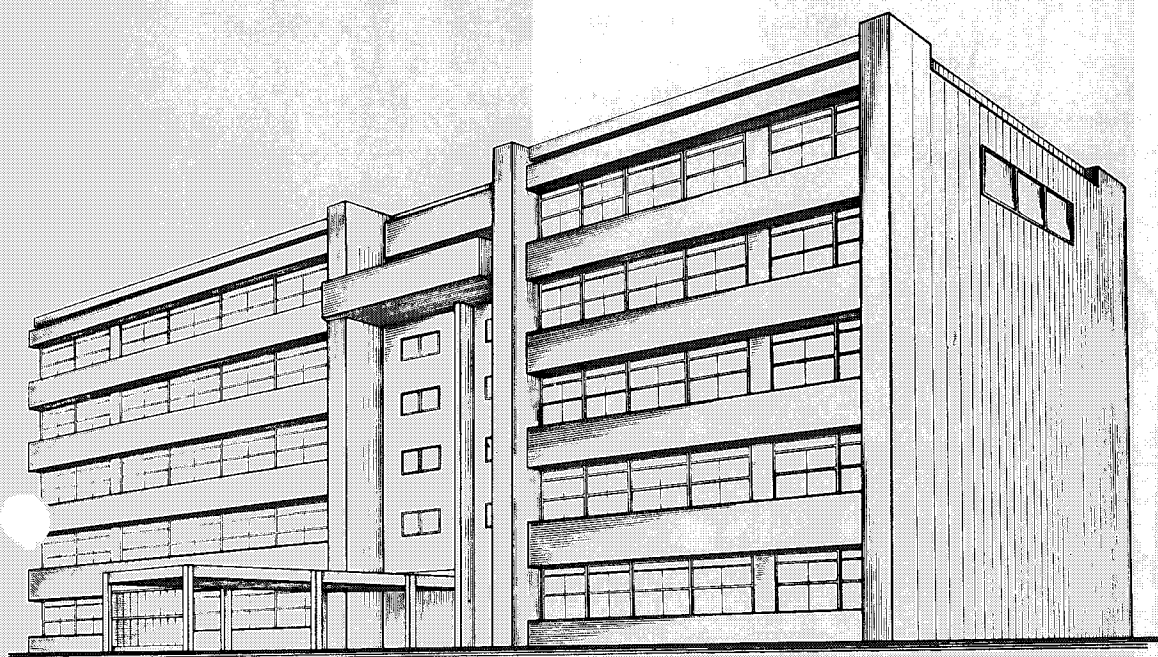


日本大学工科校友会

桜工



1968-51



若きエンジニア

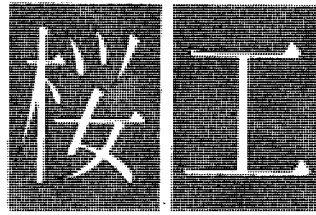


堀内敬三 作詞作曲

- 1 昭渙の日出づる国こそわが祖国
其の名をば担いて聳ゆわが母校
伸びゆく日本の力は茲に
地を拓き行く者若きエンジニア
- 2 青春に夢あり宇宙に真理あり
現実と理想を結ぶもの我等
科学の力と不屈の意志を
武器として進まん若きエンジニア

日本大学の目的 および使命

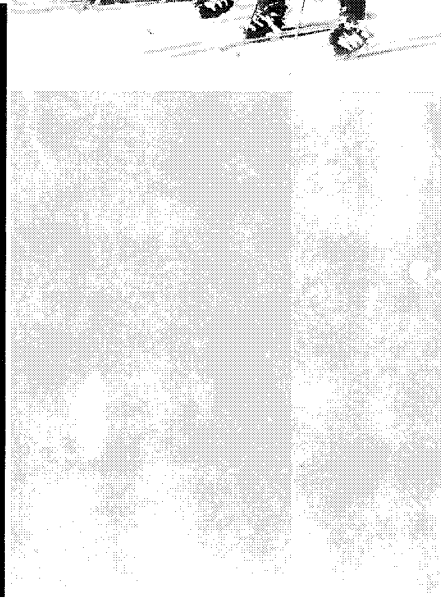
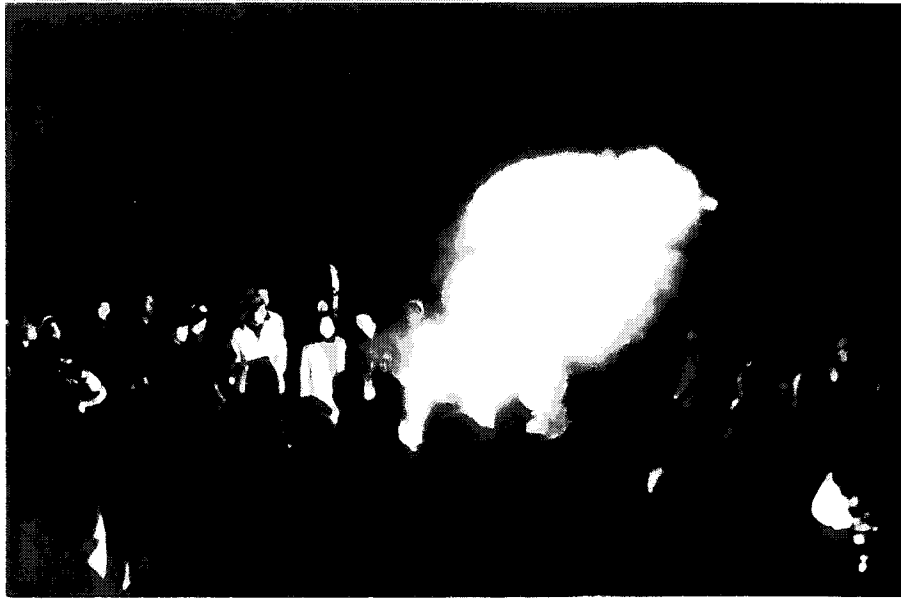
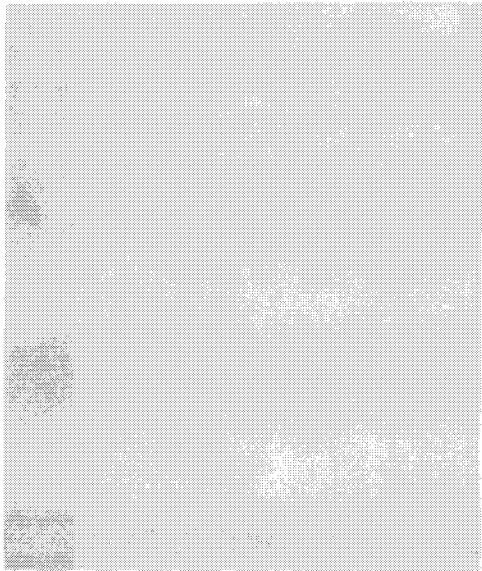
1. 日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがひ、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。
2. 日本大学は、広く世界に知識をもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。



日本大学
工科校友会誌
1968
VoL. 16
No. 51

- 新卒業生を校友会員として
迎えるに当って／木田保太郎…………… 5
- 新卒業生を送るにあたって／大塚誠之…………… 6
- 4年間の学生生活を反省して
 - 大学生活を顧て／中里吉明…………… 7
 - 卒業に当って／吉田典子…………… 8
 - 卒業に思う／宮田真文…………… 8
 - バカンス／松田明行…………… 9
 - 卒業に当り／倉本泰治…………… 9
 - 貴重な経験を生かして／河野勝彦……………10
 - 卒業に際して／松山俊明……………10
 - 卒業に際して／出頭茂……………10
 - 今思う事／高橋淑子……………11
 - 学生生活をふりかえり／藤田栄保……………11
 - 楽しきかな数学科／渡辺康雄……………12
 - 卒業に際するの寸描／佐貫平二……………12
 - いざ歌わんかな／前田謙……………13
 - 大学生活の感想／野口雄……………14
- そろばんの功罪（上）……………安藤 三郎…15
- 理工学部スキー学校……………望月 昭宏…18
- 対談 社会における大学の意義……………23
中谷 宏・南山 斉
- 部会だより
土木・電気 (29) 機械・化学 (30) 薬学・数学
(31) 生産 (32)
- 文部だより(33) ■会合だより(33) ■学友短信 (34)
- 雑記帳 (35) ■「桜工」編集を顧て (35)
- グラビア 8号館の完成予想図 (工化・薬学)
- 表紙 工学部校舎・スキー学校

スキー学校



横浜

安政6年、幕府の意向により開港ときまった当時の横浜は、戸数わずかに100戸に満たぬ、小さな漁村にすぎなかったが、それがわずか100年の間に、わが国の海の表玄関として、6大都市の1つに数えられるまでに発展したのである。メリケン波止場、国際都市としての発展、そして戦災、復興と明治、大正、昭和を通して、横浜の歴史はまさに日本の縮図ともいえる。はじめて横浜を訪れた人ならば、まず山下公園のマリタワーに登ってみることをおすすめする(夜は8時まで)豪華船のマストの明かり、船の間を歩きかうホテルのような青いランチの光が美しい。足下の岸壁にはユースホテルとして生れかわった氷川丸がつながれ、山下公園の中央には、7色に変わる噴水の中に「水の女神」の像が立っている。

中華街：マリタワーから西へ歩いて5分くらいのところが、中華街である。ここには70に余る中華料理店が軒を並べている。料理は広東料理が多く、大どころでは、**華勝楼**、**華正楼**、**万珍楼**、**洞発**、北京料理の**陽華楼**など、こじんまりして庶民的な店では、**海員閣**、**鴻昌**、**順海閣**などが有名、**重慶飯店**は唯一の四川料理である。中華街といっても西洋料理のうまい店もある。ピフテキの**ジャック**、上等な家庭料理ともいうべきドイツ料理を出す**ハンザ**が有名。

関内：中華街を出て、桜木町に向かってしばらく行くと、尾上町～本町4丁目あたりのビル街に出る。ここは関内と呼ばれ、昼間はオフィス街だが、料亭、バーはこの一角にかなり多い。スキ焼の**竹宇知**、日本風料理亭**みどり**、すしの**松野**、関西料理の**浜徳**、ヒレカツの**勝烈庵**、うなぎの**わかな**、などは関内でも名のとおった店である。ビルの一隅に陣取ったバーが200軒といわれ、このあたりで飲むにもこと欠かない。なかで

も民芸調の**クラブケイ**、バンド入りの**ユキ**、**ロンドン**、**ストーク**などが知られている。

伊勢佐木町：吉田橋を渡って伊勢佐木町に入ろう。広東料理の一流中の一流といわれるのが**博雅**、もっといくと、たたき肉のすき焼きでうまい**蛇の目**、裏通りに入って牛鍋の**なわのれん**などを推す。

横浜駅周辺：市内まで足をのばす時間のない方は横浜駅西口を歩くとよい。食事から飲む方まで、まず一応はここで用を足せる。また東口には駅売りのシュウマイで有名な**崎陽軒**がある。さて最後にキャバレーであるが、関内では**ナイトアンドデー**、山下町の**グランドパレス**、伊勢佐木町の**金港サロン**、山手の**クリフトサイド**をあげよう。東京ほどボラれずに、エキゾチックなムードを楽しめよう。

「桜工」編集を顧みて

名取 康／編集委員長

早いもので「桜工」の第44号の編集に携ってからこの第51号で満2年目を迎え一応任期が終ることになります。振り返ってみまして全委員の懸命な努力は買って戴けると思いますが、その結果は必ずしも満足なものではないと思います。第44号で「桜工」の在り方について思うことを述べましたが、そこに掲げたことをどのように実施して来たかを顧みますと、第1に本学の機構の多様性を考慮してその共通の場を目指し、特定の学科に片寄ることを出来るだけ避けた。また特別特集号は次第になくなった。第2に各科毎の紙面として各部会だよりの欄を設けた。第3百工科校友会の組織としては未解決ですが、「桜工」は一步先じて生産工学部、工学部も一緒になって進むべく努力しています。第4には工科校友会の機関紙として校友の

親睦を旨とした編集を行なっています。第5として学生の記事を必ず入れるように努めました。第6に表紙は機関紙の顔として重要であり、その都度行き方を変えることは避け工科の施設を写真でとりあげた。第7に見ることの楽しみとしてのグラビアは重視し、それを大きく扱った。第8として文中の広告を避け巻頭と巻末にまとめて掲載した。また第44号からの印象的なことを時系列的にみると、第9代工科校友会木山保太郎会長の就任(41年5月)部会だより欄設置(41年9月)成瀬勝武先生叙勲祝賀会(41年11月)編集担当木下事務局長死去(42年1月)理工学部女子学生座談会(42年6月)横地伊三郎学長死去(42年8月)建築科海外研修旅行(42年8月)理工・生産・工学部長、短大工科長就任祝賀会(42年11月)第50号記念特集号発行(43年2月)などであります。工科校友会の各種委員会の中でも編集委員会は毎月確実に実施し、上記のようなことを着実に実行して来たが当初の意気込みに反して欠張り原稿難があり、それに起因する発行のおくれなどがあつたのは残念です。常に1～2号先の原稿はストックしておく位の余裕をもつための計画性とそれを実行するだけの実力を備えることが必要です。ともあれ我々の足らざるところを次の方々か補って戴いて立派な「桜工」に育てて行くことを願ってやみません。

■会誌委員／委員長名取康(化学)／土木・下青木秀吉(副委員長)、篠本勝美／健算・安葉三郎、井出好昭／機械・青木顕一郎、両角豊志／電気・篠原博(副委員長)、高橋信夫／化学・大塚喜作、黒沢喜久雄／工経・三浦智徳／薬学・山内盛、戸塚淳逸

■昭和43年3月20日印刷／25日発行

■編集兼発行人／高木政司

■発行／日本大学工科校友会(東京都千代田区神田駿河台1の8／電話東京293-3251内線206／振替・東京162710)

■印刷／本文・鉄鋼新聞社印刷部、グラビア・和喜グラビア